



地域で見守ろう! ペットは飼い主さんの バロメーター



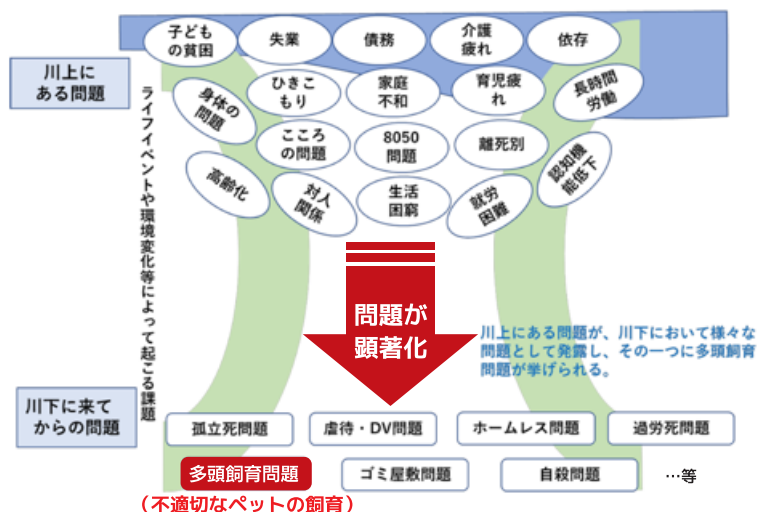
貧困、認知症の進行、虐待など…
ペットを見れば飼い主さんの状態がわかる!

環境省がガイドラインを策定

令和3年3月26日、多数の動物を抱え適切に飼養管理できなくなってしまう「多頭飼育問題」に、地方自治体を始め多くの関係者が連携して取り組むための方策をまとめた「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」を環境省が策定し、公表しました。飼い主さんが手に負えなくなった「多頭飼育」は、悪臭、騒音、ゴミ屋敷化など問題が周囲からも見えやすく、近隣住民にも弊害が及びます。

飼い主支援＝動物支援→福祉へ

「多頭飼育問題」など不適切な飼育の背景には、飼い主さんの経済的困窮や社会的孤立による生活困窮といった問題があり、社会福祉的な支援を必要とする飼い主さんが多いこと、再発のリスクが高いことから「人の問題」と「動物の問題」として別々にとらえるのではなく、関係者が連携して対応し、それぞれに必要な福祉へつなげることが重要です。



環境省「多頭飼育問題」ガイドライン

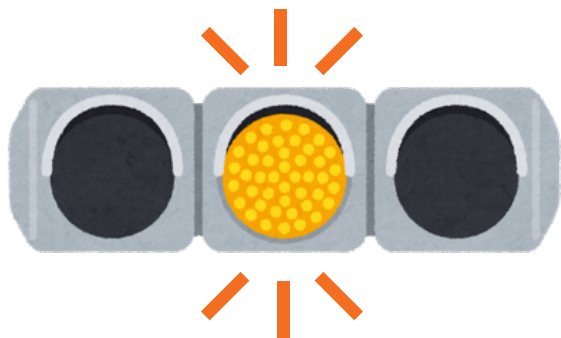


見守りの連携で問題解決!

ゆるやかな見守り
地域住民など

担当による見守り
民生委員・自治会長など

専門的な見守り
新潟市(行政)・地域包括など



多頭飼育が問題化する兆候は？ 黄色信号チェック

チェックリストを使って飼い主さんとペットの状態を確認してください。
☑が5つ以上あったら「赤信号になる前に」関係機関に相談しましょう！

飼い主さんに関すること

- ①近所付き合いがない
- ②ゴミ出しなどコミュニティのルールが守れない
- ③足腰が弱いなど体力的に心配
- ④家からどなり声がひんぱんに聞こえる・暴力的な性格になった
- ⑤不審な行動が増えるなど精神的に心配
- ⑥体の汚れや身だしなみに気を使わなくなった
- ⑦表情が憔悴（しょうすい）していたり、痩せたりしている
- ⑧ゴミ屋敷化してきた
- ⑨家にひきこもり、静まりかえっている
- ⑩ペットへの愛情を感じない



飼い主さんが高齢の場合

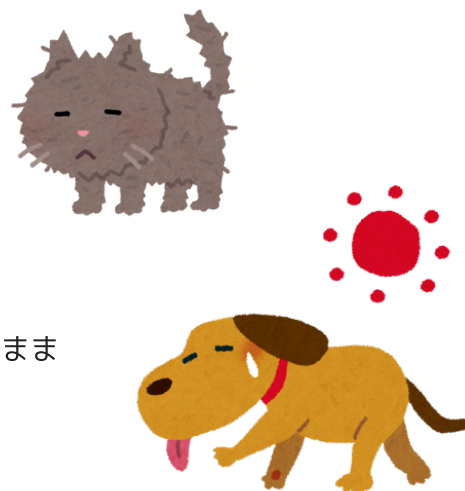
ペットの世話が困難になる高齢者が急増しています。
高齢者とペットの暮らしが共生できるように早めに協力していきましょう。

- ⑪高齢者のみの世帯で、家族や親せきが遠方でなかなか手伝えない
- ⑫体力面、精神面が弱ってきた
- ⑬ペットや知人の名前を言えないなど物忘れが多くなった
- ⑭些細（ささい）なことで怒ったり、人を疑ったりなど性格が変わった
- ⑮料理や掃除など身の回りのことをしなくなった
- ⑯散歩や買い物など習慣にしていたことをしなくなった
- ⑰不安感が強い
- ⑱季節にそぐわない服装をしている
- ⑲時間の感覚が分からなくなってきた
- ⑳なれている道で迷う、徘徊（はいかい）など不審な行動が増えた
- ㉑狂犬病予防接種やフィラリア予防などペットに必要な医療への意識が薄れてきた



ペットに関すること

- ㉒不妊・去勢手術しておらず、子猫・子犬が生まれている
- ㉓ペットが太りすぎている、または痩せすぎている
- ㉔ペットの具合が悪そうなのに3日以上放置されている
- ㉕ペットが汚い（毛玉が多い、爪が伸びている、悪臭を放っている）
- ㉖鳴き声や異臭、猫の糞尿などで近隣が迷惑している
- ㉗飼育環境が異常（汚れ、異臭、水や餌が置いてない）
- ㉘ノミやダニなど害虫が発生している
- ㉙犬の場合、非常識な寒さ、暑さ、雨雪・強風でも、外につながれたまま
- ㉚犬の場合、散歩をしていない
- ㉛猫の場合、野良猫を集めるなどして数がどんどん増えている



未然に
防ごう！

- * 多頭飼育崩壊を防ぐのは最初の1匹！
- * 飼い主がいらない猫 = 避妊去勢手術の助成金制度があります！
- * 新潟市は条例で10頭以上の犬猫の飼育は届出が必要です！

相談窓口 → 新潟市動物愛護センター ☎025-288-0017